

## 国語科学習指導案

日 時 平成20年10月17日(金)

児 童 4名

授業者 ○ ○ ○ ○

1 単元名 位置を考えよう

教材名 よくよんで

2 単元について

(1) 児童について

本学級は、

(中略)

4名とも学

校生活に慣れ、学習に意欲的に取り組んでいる。また、協力学級での活動にも積極的に参加している。

国語における児童の実態は、平仮名清音の読み書きがやっとならなくなった段階から、小学校6年生の教科書を使って漢字の学習をしている段階までである。発達段階、学習経験、生活経験など大きな開きがあり、一つの題材で一斉指導を行うことは難しい。

読書について、自分からはなかなか本を手にとろうとしない児童や、挿絵だけを眺めて文章は読もうとしない児童もいるため、国語科の学習の導入として毎日本の読み聞かせをしている。読んで欲しい本をリクエストしてきたり、自分でも物語の本を手にとったりするなど読書に少しずつ親しむようになってきたところである。

また、「個別の指導計画」に従い、平仮名の読み書き、片仮名や漢字の学習、視写、簡単な文章の読み取りや「言葉のきまり」等の個別の課題に取り組んできた。

実態には大きな違いはあるが、個別指導だけでなく、全員が同じ題材で学習することで、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりすることにより考えを深めることができると考える。その上で、同一の題材を扱う中でも、個別の学習プリントなどによりそれぞれの発達段階・課題に合わせて学習の定着を図りたい。

(2) 題材について

盲学校、ろう学校及び養護学校学習指導要領（知的養護学校・小学部国語科）において、国語科の意義として次のように記されている。

「小学部の国語科では、児童が日々の生活において、人の話を聞いたり、人と話したり、いろいろなものを読んで情報を得たり、必要に応じてものを書いたりすることを重視し、日常生活に必要な国語を理解し、表現する能力と態度を育てることを目標としていることが特徴である。」

児童は、学校生活の中で「○○さんの後ろに並びましょう」と指示されたり、家庭生活でも「電話の右の棚にある新聞を取ってきて」と頼まれたりなど位置に関する会話が交わされることが多い。しかし、指示された通りに並んだり、物を取ったりすることは難しい。

本単元「よくよんで」は、文を読み、カードを文の通りに並べたり、自分たちで並んだりする活動を通して、文を読んで理解する力を育てることをねらいとしている。この学習活動は、指示される名詞とカードのマッチング、上下・左右・前後の位置関係や空間認知の理解が必要になってくる。また、同じような文でも助詞によって意味が全く反対になることから、助詞に着目し、主語を探して考える力も必要である。このことから、本題材に取り組ませることは、上下・左右・前後の理解を定着化し、日常生活に生かすとともに読解力を高めることができると思う。

### (3) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、次の工夫をする。

#### ① 視覚支援の工夫

- ・ 活動内容を視覚的方法により分かりやすく示す。
- ・ 活動の一つずつ示すなど、注目しやすいようにする。

#### ② 個に応じた課題設定の工夫

- ・ 個に応じて、少しずつ段階をおった課題を設定する。
- ・ 個に応じてヒントを分かりやすく提示する。

#### ③ 意思を伝えやすくするような工夫

- ・ 指導者が分かりやすい言葉で、簡潔に伝える。
- ・ 具体物や文字カードを手がかりに自分の言葉で発表できるようにする。

はじめに、比較的やさしい問題をみんなで考え、発表し合うことで、自信を持って自分の課題に取り組めるようにする。さらに、文を読んで考える活動を繰り返すことにより、耳で聞いて理解し、位置関係を把握できるようにしていきたい。それによりこの学習が読解力をつけるとともに、日常の生活の中でも生かすことができると思う。

### 3 単元の目標

- (1) 文を大きな声で読む。
- (2) 上下・左右・前後といった位置を表す言葉が分かる。
- (3) 文を読んで意味を理解し、カードを並べることができる。

### 4 指導計画（基本文型）（全8時間）

I	かぶは、しいたけの左にあります。 Aさんは、Bさんの前にいます。	2時間
II	かぶの左にしいたけがあります。 Aさんの前にBさんがいます。	2時間
III	かぶの右にしいたけがあります。かぶの左にピーマンがあります。 Aさんの前にBさんがいます。Aさんの後ろにCさんがいます。	1時間
IV	かぶの右にしいたけがあります。かぶは、キャベツの右にあります。 Aさんの後ろにBさんがいます。Aさんは、Cさんの後ろです。	1時間 (本時)
V	クイズ大会をしよう。	2時間

5 本時の指導

(1) 児童の実態と本時の具体目標 (一部省略)

児童名	実 態	本 時 の 目 標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上下、前後の位置が分かる。</li> <li>○ 平仮名清音の読み書きができる。</li> <li>○ 片仮名は概ね読むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2枚のカードを指示された通りに並べることができる。</li> <li>○ 位置を表す言葉に気を付けて文を読むことができる。</li> <li>○ プリントに適切な単語を書くことができる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上下、前後、左右の位置が分かる。</li> <li>○ 一生懸命に音読する。</li> <li>○ 平仮名の読み書きができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2～3枚のカードを指示された通りに並べることができる。</li> <li>○ 助詞に気を付けて文を読むことができる。</li> <li>○ 適切や助詞や単語を書いて、文を完成させる。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意欲的に読むことができる。</li> <li>○ 平仮名の読み書きができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2～3枚のカードを指示された通りに並べることができる。</li> <li>○ 助詞に気を付けて文を読むことができる。</li> <li>○ 適切や助詞や単語、位置を表す言葉を書いて、文を完成させる。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上下、前後、左右の位置が分かる。</li> <li>○ 漢字は学年相当の読み書きができる。</li> <li>○ 経験したことなど100字程度の簡単な作文に表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3～4枚のカードを指示された通りに並べることができる。</li> <li>○ 助詞に着目し、主語を見つけて文の意味を考えることができる。</li> <li>○ 位置関係を表す文を考えて書くことができる。</li> </ul>

(2) 展開

	学習活動	個別の課題、指導上の留意点・支援			準備物
		A	B・C	D	
つかむ 5分	<p>1 本の読み聞かせを聞く。</p> <p>2 学習課題をつかむ。 ○位置関係を表す言葉を確認する。</p>	<p>本の読み聞かせを楽しんで聞くことにより、本に親しむと同時に、授業に対する集中力を高める。</p> <p>よくよんで、ならべてみよう。</p> <p>「左右」については、手を上げて確認する。</p> <p>文字カードを黒板に張らせることで意欲を高める。</p>			<p>本「月とサーカス」</p> <p>・紙板書 ・文字カード</p>
考える	<p>3 共通の指示文を読み、カードを並べる。</p> <p>4 個別の課題に取り組む。 ○それぞれの文を読み、机の上でカードを並べる。</p>	<p>かぶの右にしいたけがあります。かぶは、キャベツの右にあります。</p> <p>かぶとしいたけとキャベツの3枚のカードを選ばせる。</p> <p>かぶとしいたけの2枚のカードを並べる。</p> <p>かぶとしいたけのカードを動かさずにキャベツのカードをどこに張ればよいか考えさせる。</p> <p>みぎにしいたけがあります。ひだりにたまねぎがあります。</p> <p>なすの右にじゃがいもがあります。なすはねぎの右にあります。</p> <p>白菜の右にねぎがあります。いもの右にかぼちゃがあります。白菜はかぼちゃの右にあります。</p> <p>野菜カードを自分で選ぶようにさせる。</p> <p>迷っている場合は「右にじゃがいもが」にサイドラインをひく。</p> <p>指示文は、黒板に張って声に出して読ませる。カードを並べるときには混乱しないように小さいプリントを机の上におく。</p>			<p>・紙板書</p>

	学習活動	個別の課題、指導上の留意点・支援			準備物
		A	B・C	D	
30分	5位置関係を考えて並ぶ。 ○ 黒板の方を前に一列に並ぶ。	わか先生の まえにAさ んがいます。	わか先生の前 にB君がいま す。B君はC 君の後ろです	わか先生の前 にAさんがい ます。C君の 前にB君がい ます。B君は わか先生の後 ろです。	
		間違えたときは、助詞に印をつけて前（後ろ）は誰かを確認する。			
まとめ 10分	6まとめのプリント ○適切な言葉や助詞を書いて文を完成させる。	プリントには拗音を含まない野菜をとりあげる。	片仮名で書く野菜を使い、習熟を計る。	主語を何にするか考えて位置を表す文を書くようにさせる。	・個別のプリント

(3) 評価

共通 指示文を読んで、位置を考えたりカードを並べたりすることができたか。

個別

A	文の意味を理解して、プリントに野菜の名前を書くことができたか。
B	カードを見ながらあてはまる助詞を正しく書くことができたか。
C	カードを見て適切な位置を表す言葉を書くことができたか。
D	カードを見て位置関係を表す文を考えて書くことができたか。